

# ご近所の お医者さん

  
487  

梅田トラベル  
クリニック院長 都竹正信さん 一大阪市北区

## 狂犬病

国内では1957年を最後に、60年以上にわたって狂犬病の感染例は報告されていません。しかし、先進国を含むほとんどの国や地域において、現在も狂犬病が発生し、年間5万人以上が死亡しています。

海外旅行  
がごく身  
近となった今、旅行先での狂犬病に  
くれれも注意しましょう。

狂犬病に感染するのは哺乳動物だけです。感染動物の唾液に含まれる狂犬ウイルスが体内に侵入することで

感染します。いったん症状が出ると、数日以内にほぼ100%死亡する恐ろしい病気ですので、感染の可能性が低いと考えられるような接触であっても必ず治療を受けてください。幸い、

## 世界で年5万人死亡

潜伏期間(感染成立から発症するまでの無症状の期間)は通常1〜3カ月です。感染しても直ちに治療を開始すれば間に合います。ただし、イヌだけでなく、ヒトを除く哺乳動物なら何でも感染力を持つので注意が必要です。「イヌじゃないから大丈夫」とは絶対に考えないでください。加えて、動物が狂い始めるのは死の数日前から、実はその前から唾液中にウイルスを排出しています。「おとなしう

引っかけ傷、傷や粘膜をなめられたなども含みます)直ちに治療を開始する——の二つを必ず実践してください。まず傷口を石けんと流水でよく洗い、できるだけ早く現地の病院を受診してください。コウモリだけは、接触しただけでも治療が必要です。

だから大丈夫」と油断するのも禁物です。狂犬病から身を守るためにはまず、旅行先が狂犬病汚染国であるかどうかを知りましょう。ほとんどの場合、該当するはずですが、そして、狂犬病汚染国では、①ヒト以外の哺乳動物は種類や見かけに関わらず全て感染している、とみなす②その唾液が体内に入った可能性が少しでもあれば(あまがみ、



長期滞在や頻繁に渡航される場合は、事前の予防接種も考慮しましょう。それでは、狂犬病に気をつけて楽しいご旅行を。